



# 東北復興日記

まだまだ

▶▶ 218



いわきおてんと

SUN企業組合 事務局長

島村守彦さん



十八人乗りの小さな飛行機が降り立ったのはネパールのタムリングター空港。早稲田大学とプリチストーンが環境問題への貢献を目的に実施するプロジェクト「WIB RIDGE」の一環で、三月下旬に訪れました。二年前の大地震から復興の途上にあるネパールに持ち込んだ荷物には、福島の小中学生が手作りした太陽光パネル三十枚や「一緒に頑張ろう」の応援メッセージが入っていました。

ガタガタ道に揺られて、ヒマラヤのふもとにあるチャンダンプールの村の学校に到着。震災で校舎は

写真、村人とともにパネルを設置しました。

夕方になるまで小さな女の子が待っていました。聞くと「水が欲しい」とのこと。与えた水を一気に飲み干す姿を見て、おなががすいているのかなと思い、リュックに残っていたドーナツを渡すと、お辞儀をしながら手を合わせて「ナマステ」と感謝の言葉。独り

## ネパールの子に心打たれ

半分が使えない状態ですが、テスト期間で休校日にもかかわらず、約三百人の子どもたちが出迎えてくれました。愛知県の皆さんが集めた鉛筆千二百本、現地で購入したノート六百五十冊などを手渡しました。

開催した講習会には定員の三倍を超す子どもたちのほか、村人や警察官まで集まりました。電気のない教室に、福島産の太陽光パネルを使った明かりがとまります。すると、大きな歓声と笑顔があふれました。

次に向かった場所も震災の傷痕が生々しいシンドフーコット村にある学校。元の校舎は崖の下に崩れ落ち、丘の上にトタンで囲まれた仮設校舎で学んでいます。二十人ほどの子どもたちが見守る中

占めすることなく、後ろにいる二人の子どもたちにも分け与えること、驚いたことに残りを私に返してきました。制服の袖のボタンは取れ、男の子ははだし。学校と自宅は倒壊し、食べ物すら十分ない環境の中、小さな女の子の行動と感謝の言葉に涙があふれました。



※QRコードを読み取ると現地の動画が見られます。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。